



# 名門と呼ばれる理由

あのブランドはなぜ「名門」とされるのか。  
その歴史を振り返り、名門の名門たる所以を解き明かす。

Text: 石丸 淳



## vol.03 BENTLEY



W.O. Bentley

ベントレーというブランドは、通称“W.O.”として知られるウォルター・オーウェン・ベントレーという稀代の名エンジニアの情熱によって第一次世界大戦後、興されている。

1919年8月にベントレー・モーターズ・リミテッドは、兄のホレス・ミルナー・ベントレー、ハンバーのワークス・ドライバーでありチーフ・デザイナーであったフランク・バージェス、ヴェックスホルのハリ・ヴァーリーらと共にロンドンの中心部、コンデュイト・ストリート16番地に産声を上げた。

間もなく3リッターのプロトタイプが製作されレースなどで開発、その後ロンドン北西部クリックルウッドに建設された工場から実際に生産車が門をくぐって出たのは2年後のことだった。ベントレーの名を初めて冠したこのモデルは、クロスフローのOHC直列4気筒16バルブ、そしてツインブ

ラグという先進的なメカニズムを擁していた。

それは「最高の自動車を造りたい」という“W.O.”の希望通りにはなったが、その価格もまた英国マーケットにおける最高のものとなった。しかし俳優やケント公などをはじめとする著名なオーナーたちに迎えられ、ベントレーは最初から高級車としてのprestigeを充分に確立していったのである。

一方、ベントレーのスポーツカーはレースに積極的に参加。ブルックランズ、マン島、アルスター、ベルファースト、アメリカのインディアナポリスなどで好成績を挙げていた。中でも1923年に始まるル・マンでは、伝説となる活躍をしている。

ル・マンでは1924年に初勝利、そして1927～1930年まで4年連続で制覇し、その実力を如何なく発揮した。ベントレーは裕福で実



The Bentley Boys



R-Type Continental

力のあるアマチュア・ドライバーたちをワークスに起用し、彼らは“ベントレー・ボーイズ”と呼ばれていた。

とくに'28～'30年に3連覇したウォルフ・パーナートはその筆頭で、1926年から自身が資金を注入、ドライバーとしてだけでなくベントレー・モーターズの会長でもあった。優勝後のベントレー・ボーイズによる豪華なパーティも、この時代に華を添えるイベントとして知られる。

この間に6気筒の大排気量モデル、6 1/2リッターや4 1/2リッター、8.0リッターと開発されて、スピードシックス、ブローワー・ベントレーと呼ばれるスーパーチャージャー付きの4 1/2リッターモデルなど名作が生まれている。

しかし1929年に起きた大恐慌の影響で、経営的に破綻を迎えつつあったベントレーは、1931年にロールス・ロイスに買収されて新しい時代を迎える。この後33年からクルー工場のできる39年までを、ロールス・ロイスの本社があっ

た場所に因んで“ダービー・ベントレー”と呼ぶが、この時代、レース活動を行わないという方針に対し“W.O.”は会社を去ることになる。

ロールス・ロイスをベースとするダービー・ベントレーは、セールス・ポイントにも新しく「サイレント・スポーツカー」というキャプションが加えられた。第二次世界大戦後、その延長線上にあるスポーツ的な高性能モデルを、Rタイプ・コンチネンタルとして52年に発表。スポーツサルーンとしてのスタイルを確立する。

1959年には、それまでの直列6気筒に換わる新しい6.23リッターV型8気筒のエンジンがS2でデビューするが、これは現在のアルナージ系に続くユニットの基礎となるものだった。

RからSと続いたシリーズは、'67年にはTシリーズとなり、'70年にこのV8ユニットが6.75リッターに拡大される。そして'82年、ついにミュルサンヌ・ターボで初のターボチャージャーを携えたモデルが発表されるのである。

その後BMWがロールス・ロイスにエンジンを提供する契約を結んだ関係で、'90年代後半にBMW製ツインチャージャーV8エンジン・ユニットを搭載したモデルが存在したが、VWグループがすべてを買収、ロールス・ロイスのブランド使用权をBMWが取得することになると、2002年12月31日からロールス・ロイスとは袂を分かち、新たに独立したベントレーとしての歩みを始めた。

この新生ベントレーからは6.0リッターW型12気筒を搭載し、コンチネンタルの名前が復活したコンチネンタルGT、GTC、そしてコンチネンタル・フライングスパーがデビュー。かつてのようにル・マンへの復帰も果たし、アルナージ系となる最新モデルのブルックランズではV8ユニットが6.76リッターまで拡大されて537PSを出力するにいたっている。

スポーツカー、あるいはグランドトゥアラマーのメーカーとして、ベントレーは“W.O.”の夢を紡ぎ、最高のものを造り続けているのだ。

